

令和6年度

(令和6年4月～令和7年3月事業分)

南阿蘇村教育に関する事務の管理及び  
執行の状況の点検及び評価報告書



令和7年9月

南阿蘇村教育委員会

## 目 次

(項 目)	(頁)
1 概要	(1)
2 点検・評価の対象	(1)
3 点検・評価の方法	(1)
4 点検・評価の基準	(1)
5 点検評価委員会議及び意見	(2)
6 議会への報告	(2)
7 点検評価の流れ	(3)
8 点検・評価表	(4) ～ (12)
9 点検評価委員の意見	(13) ～ (14)

## 1 概要

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、令和6年度に実施した教育委員会の事務・事業について点検評価委員が点検及び評価を行い、意見を付して議会に報告書を提出するものです。

## 2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、令和6年度南阿蘇村教育委員会の所管事務・事業です。

## 3 点検・評価の方法

### (1) 点検評価表

点検評価表は、南阿蘇村教育委員会が毎年その権限に属する事務・事業の実践事項を評価項目として作成しています。

### (2) 点検評価委員の委嘱

点検・評価の客観性を確保するため、有識者2名を南阿蘇村教育委員会点検評価委員として委嘱し、教育委員会所管事務・事業を説明する機会を設け、外部評価及びご意見、ご助言を戴きました。

#### 【点検評価委員】

氏名：北 誠一郎 役職：学校教育指導員

氏名：坂田 菊美 役職：学校教育指導員

## 4 点検・評価の基準

点検・評価の基準は、実現度を次のAからDの4段階としています。

- |           |              |
|-----------|--------------|
| A・・・十分達成  | (90%以上)      |
| B・・・概ね達成  | (70%以上90%未満) |
| C・・・やや不十分 | (50%以上70%未満) |
| D・・・不十分   | (50%未満)      |

## 5 点検評価委員会議及び意見

点検評価委員は南阿蘇村教育委員会に関する事務の管理及び執行状況について、南阿蘇村教育委員会からの説明を受け、関係書類等を審査し、総合的な意見を述べるようになっていきます。

実施日：令和7年8月21日（木）・22日（金）※点検・評価

令和7年8月28日（木）・29日（金）※報告書作成

場 所：南阿蘇村役場1階 小会議室

**※13～14ページに意見書を添付**

## 6 議会への報告

前年度の教育施策の執行状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、毎年9月議会定例会に提出します。

### 【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

点検評価の流れ

南阿蘇村の教育方針



計画に基づく各事務・事業の実施



自己の点検・評価



点検評価委員による点検・評価



報告書の作成

議会への提出・公表

# 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90%未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	① 教育内容の充実	1 南阿蘇村放課後英数教室	学校・講師・学校教育指導員の協力のもと、円滑に実施することができた。結果として、ほとんどの生徒が希望する高校に進学することができ、本教室が、内容・結果ともに充実できたと感じるとともに、生徒の進路実現に大きく寄与することができた。	90%	A	高校受験を控えた中学3年生を対象に充実した英数教室が開催できている。生徒の進路実現のために大きく貢献できている。	A
		2 特別支援教育支援員等の配置	各学校に3名ずつ支援員を配置することができた。支援が必要な児童・生徒に対し個に応じた対応ができるとともに、特別支援学級や通常学級においても、きめ細かな学習支援を行うことができた。また、特別支援教育に係る研修会も実施することができ支援員としての資質向上にも寄与できた。	90%	A	支援が必要な児童・生徒の実態を把握し、個に応じたきめ細かな生活支援や学習支援がなされている。また、支援員の資質向上を図る研修会も計画的に実施されている。	A
		3 英語検定料の補助	英検の受検機会を増やすことで、学習機会の増加へと繋がった。また、中学3年生については、第2回（10月試験）・第3回（1月試験）と受検できる機会を増やした。今後も、中学3年生で英検3級以上の取得者を増やし、県が掲げている目標を達成できるよう支援していきたい。	90%	A	小学校5年生から中学校3年生まで全ての児童・生徒の受検機会の確保が図られている。中学3年生で英検3級取得という具体的な目標に向かう学習意識の高まりも見られる。	A
		4 中学校部活動指導員の配置	中学校からの要望どおり部活動指導員を配置することができた。教職員が担う顧問同様、直接的な技術指導並びに大会等への引率が可能となり、担当教職員の負担軽減を図りながら指導体制を充実させることができた。	90%	A	技能面の指導だけではなく、引率業務が可能となり教職員の負担軽減にもつながっている。	A
	② 教育環境・学校施設の整備	5 情報教育の推進	GIGAスクール構想により令和2年度にタブレットPCやネットワークシステムを構築したが、活用について大きな課題となっていた。学習用教材を新たに導入し、先生方のスキルもアップすることができ、子ども達もICT教育に積極的に触れることができた。今後も、教職員のスキルアップの講習会などを定期的で開催し、タブレットPCを中心にICT教育の推進を行うことが望まれる。	100%	A	令和6年度から、学習用教材を新たに導入し、協働的な学びの推進等、授業改善に成果が上がっている。今後も、教職員のスキルアップに向けた研修会等が計画されており、ICT教育の更なる推進が期待できる。	A

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	② 教育環境・学校施設の整備	6 学校施設の整備	突発的な改修工事も含め、昨年度より件数及び金額ともに膨大ではあったが、早急に年度内に完了することが出来た。来年度以降も老朽化に伴う施設改修が予想されるため、迅速に対応していきたい。	90%	A	計画的に学校施設の整備事業が進められている。また、年度途中で発覚した不良箇所等についても適切に対応がなされている。	A
	③ 道徳教育の推進	7 道徳教育の推進	道徳科についての指導方法と評価方法の工夫・改善のために、道徳教育推進教師を中心として取組がなされている。また、学習した内容を通信等で保護者に伝えたり、授業参観をおおして行ったりしている。さらに、積極的に体験的な学習と関連させた授業等により深い学びの実現ができてい	90%	A	各学校において、道徳の時間を核としながら教育活動全体を通して道徳教育が推進されている。また、「考え、議論する」道徳科の授業改善に向け、研修会も積極的に実施されている。	A
	④ グローバル人材育成の推進	8 小学校英語講師・中学校ALITの配置	小学校低学年から英語活動を行うことにより英語の音に慣れ親しみ、コミュニケーションに対する関心・意欲を育てることができた。また、教科化となった小学校英語から中学校英語にスムーズに移行できるよう取り組むとともに、中学校の授業では、ALITとのコミュニケーションを重要視した授業などが行われ英語力の向上が図られた。	90%	A	小学校外国語活動や外国語科、中学校外国語科の授業の充実に大きく貢献している。特に、コミュニケーションを重視した授業展開により、関心・意欲の向上につながっている。また、中学3年生の英検3級以上取得の目標値実現に向けて寄与している。	A
	⑤ コミュニティ・スクールの支援	9 小・中学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の充実	学校運営協議会が主体となり、協力していただけるおかげで、会議や地域活動などがスムーズに実施できている。今後も学校運営協議会の委員の方や地域の方々が学校の運営に参画し、必要に応じて、子供の教育と一緒に担っていただきたい。	90%	A	各学校では、「地域とともにある学校づくり」の実現に向け、学校運営協議会を核とした体制が整い、活動の活性化が図られている。今後も、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進が期待できる。	A
	⑥ 地域学校協働活動本部の設置	10 地域学校協働活動本部の充実	統括推進員と各学校に配置している推進員が連携することで、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」に向けた具体的な活動支援に繋がった。	90%	A	村内全ての小中学校に推進員が配置され、学校と地域の連携を深めながら、地域学校協働活動の推進が図られている。各教科や体験活動等において、地域住民等の参画が得られている。	A

# 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
1 学校教育の充実	⑦ 阿蘇ジオパーク登録による学習支援	1 1 阿蘇ジオパーク登録による学習支援	各学校において、阿蘇ジオパークに関する学習機会が設けてあり、阿蘇ジオパークに目を向ける取組等が実施されている。阿蘇火山博物館等による現地学習も行われ、火山がもたらした自然の恵みや草原の成り立ちなど、環境等について理解が深まった。	90%	A	各学校では、総合的な学習の時間等で阿蘇ジオパークに関する学習に取り組んでいる。その学習活動実施のために、関係する機関・団体から様々な協力・支援を得ることができている。	A
	⑧ 再生可能エネルギーの学習	1 2 再生可能エネルギーに関する学習	各学校において、様々な授業の中で再生可能エネルギーに関する学習機会が設けてあり、生活や産業に果たす役割、仕組み、環境問題との関係性や阿蘇地方で行われている取組などを学ぶ機会となっている。今後は、村内で施行されている小水力発電や、地熱発電などが各学校の学習に活用できるよう支援していく必要がある。	90%	A	各学校では、理科や社会科、総合的な学習の時間等で再生可能エネルギーに関する学習に取り組んでいる。今後、地理的特徴を生かした本村における取組について、各学校に周知し、支援していくことも考えられている。	A
	⑨ 湧水生態系保全の学習	1 3 湧水生態系保全に関する学習	各学校において、様々な授業の中で阿蘇の湧水・生態系に関する学習機会が設けてあり、湧水や生態系に直接かかわるゲストティーチャーを招き、先人からの営みの中でどのようにして、守り、引き継いでこられたかを児童が興味を持つように工夫しながら、取り組まれている。また、阿蘇のみならず水俣などでの環境問題を学習する機会を継続して確保できた。	90%	A	各学校では、総合的な学習の時間の「草原学習」等で、豊かな水資源を有する本村の自然環境について学ぶ機会が設定されている。その学習活動実施のために、様々な要望に真摯に応え適切に支援されている。	A
2 社会教育の推進	① 生涯学習講座の開催	1 4 高齢者学級の開催	感染症拡大前は、空調施設で年5～6回開催され、予算も5回分を計上していた。しかし、感染症拡大防止のため会場を白水小学校体育館に変更し、実施時期も限定している。当初は年3回開催を計画したが、結果的に2回開催となった。それでも毎回多くの高齢者が参加している。今後は年3回開催を目標に、高齢者の生涯学習と地域コミュニティの場として、本事業を継続する。	80%	B	実施時期や会場に配慮し、年2回実施できたことは成果である。毎回楽しみにされている住民の方々の思いを受け止め、貴重な生涯学習の機会として、事業の継続と充実を期待する。	B

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
2 社会教育の推進	① 生涯学習講座の開催	15 一般住民向けスキルアップ講座の実施 ア) 南阿蘇学講座 イ) 習字教室	南阿蘇学講座については、村の広報誌発行に合わせてチラシを全戸配布し、講座の周知と募集を行った。全ての回を通した申込みも多くあり、自分たちが住む地域のことを知る講座は参加者の満足度も高く、図書室利用者も増加傾向にある。今後も事業を継続し、生涯学習施設としての認知を広め、図書室を活用した村民への学習機会の提供を行う。	90%	A	村民のニーズに応じた講座内容を提供することができている。参加者の満足度も高く、成果を上げている。今後も魅力ある講座を計画し、幅広い層の住民の参加を促していただきたい。	A
	② 生涯学習関連施設の整備	16 公民館の整備	本年度は5件の申請があったが、年度内に完了することができた。次年度以降も様々な要望が上がってくると思われるが、自治公民館は地域のつながりを維持する大切な拠点であるため、内容を精査しながら地元寄り添ったかたちで取り組んでいきたい。	100%	A	申請があった5件について、適正に対応がなされ、より快適な地域活動の拠点が維持されている。	A
	② 生涯学習関連施設の整備	17 南阿蘇村図書室の運営	開室4年となり、図書室は利用環境が整い、安定した施設運営により利用者も増加している。これまでの事業を振り返りつつ、今後も利用者の増加を目指す。さらに配本箇所を増設や移動図書の開始準備など、図書室機能の更なる拡充を図る。また引き続き、学校図書室の支援と、子どもを含め村民全体の読書活動の推進にも取り組んでいく。	90%	A	生涯学習講座や季節ごとのイベントを開催したりする等、利用者の増加を図り、多くの住民の方々に親しまれている。今後も魅力ある図書室運営に努め、住民の生活文化の振興・発展に寄与していただきたい。	A
	③ 国内外との交流	18 新上五島町との姉妹町村交流・上天草市との連携事業	子ども会交流事業の交流キャンプは、新上五島町に行き海水浴や「うどんすくい」作りを通じ子どもたちが交流を図ることができた。スポーツ交流は、本村で開催されたサッカーを通じた交流を行った。 上天草市との交流事業は、上天草市を会場としバドミントンの交流試合により親睦を深めることができた。	90%	A	新上五島町との子ども会交流キャンプやスポーツ交流、上天草市とのスポーツ交流を実施できたことは成果である。今後も親睦・交流を通して、互いの連携を深めていただきたい。	A

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
2 社会教育の推進	④ 各種団体活動の支援	19 社会教育関係団体への支援	今年度は申請数が大きく減少した。これについては文化協会からの脱退や会の解散等が減少理由と見られる。現在活動されている団体からの補助金申請等はないため、資金以外での活動に対する課題（ニーズ）の把握が今後必要になると思われる。	80%	B	申請があった団体には、適正に支援がなされている。今後は、各団体の加入者数や活動状況に応じた支援の在り方を工夫していただきたい。	B
3 健全で心豊かな子どもの育成	① 放課後子ども教室の開催	20 放課後子ども教室の開催	今年度も地域の方の協力により、放課後子ども教室を開講することができた。参加する1・2年生の児童たちはこの教室を楽しみにしており、プログラムを計画する地域の方々も、毎回工夫を凝らした活動を提供されている。 学校や家庭だけでなく、地域の方々が子どもの教育環境に関わることは、放課後の安全確保だけでなく、子どもたちの成長と学びにも大きな役割を果たしている。今後もスタッフの確保に努め、本事業の継続を目指していく。	90%	A	村内全ての小学校で魅力ある教室を開催することができている。参加している児童にとって、豊かな体験活動の機会と安心安全な場が確保できている。地域住民によるスタッフ（指導員）の確保は今後も課題である。	A
	② 体験活動の開催及び支援	21 子ども会活動・体験活動の充実	新上五島町・南阿蘇村交流キャンプでは新上五島町を訪れ、様々な体験活動を行うことで子どもたちの健やかな成長につながり、また新上五島町とも姉妹町村として関係を強化することができたと思う。	90%	A	新上五島町との交流キャンプや南阿蘇村子ども会等の行事が、計画的に実施され、参加した子供たちにとって貴重な体験の機会となっている。	A
	③ いじめ問題・不登校の未然防止や解決に向けての指導体制支援	22 いじめ問題・不登校の未然防止や解決に向けての指導体制支援	いじめ不登校問題については、毎月の校長会議、定例報告等で状況の共有は密に図られており、今後の継続的な指導、支援につながった。また、いじめ問題対策連絡協議会の開催により関係機関との情報共有ができた。 不登校児童生徒に対しては教育支援センターが中心となり、学校と家庭との橋渡しをする機関として今後も学校以外の居場所として、継続的な対策を行う。	90%	A	いじめ問題対策連絡協議会や教育支援センター連絡協議会が機能し、学校・行政・関係機関との情報の共有をはじめ、指導体制が整備されている。今後も、いじめ問題や不登校の未然防止は、喫緊の課題として捉え、継続的な対策が必要である。	A

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
3 健全で心豊かな子どもの育成	④ 情報モラル教育の推進	23 情報モラル教育の推進	各学校において、各授業の中で情報モラルに関して学ぶ機会が設けてあり、児童・生徒のみならず、情報機器・インターネット等のトラブルや活用方法について、教職員の研修や保護者への啓発なども積極的に行われている。今後も学校への情報提供や研修の支援、情報機器の管理等を通じ、情報モラル教育に積極的に関わっていく必要がある。	90	A	各学校では、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育が計画的に実施されている。今後も保護者への啓発も含め、各学校への情報提供や情報機器の管理等を通じた支援が必要である。	A
4 人権教育の推進	① 子ども会学習会の開催	24 子ども会学習会の実施	子ども会学習会では、教科学習や人権学習等を実施した。ふるさと学習も開催し昔あそびなどを通して地域の方々と交流を深めることができた。ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う気持ちは、差別をなくす第一歩となると考えている。 現地学習を実施したことで、子どもたちだけでなく引率者にとっても差別問題をより身近な問題として感じる事ができた。多くの学習の機会を得られたことは子どもたちにとって貴重な経験となった。	90%	A	教科学習や人権学習が継続的に実施され、個々の学習を深めることができています。また、菊池恵楓園の現地学習を通して、貴重な学びの機会を得ることができています。さらに、ふるさと学習を通して、自分たちのふるさとを誇りに思える子供たちを育てていきたい。	A
	② 人権教育・啓発活動の推進	25 人権フェスティバル講演会の開催・人権教育研修会等への参加	昨年度に引き続き開催した人権啓発講演会は、演奏を交えた形式が好評で、「楽しく感動できる話で本当によかった。もっとたくさんの人に聞いてほしかった」「人権という問題を再度考えるいい機会になった」との声が聞かれた。 また、人権啓発カレンダーやグッズの配布により、人権問題が身近なものとして再認識され、差別のない明るい村の実現へ一歩近づいたと思われる。また、研究大会に参加した職員も、身近な問題への意識を高め、人権意識の向上に繋がった。	90%	A	「みなみあそ元気フェスタ」の中で人権啓発講演会を実施し、多くの村民の方々が、人権問題について考える貴重な機会となった。また、人権啓発カレンダーをはじめ、啓発グッズを配布し、村民の人権意識の高揚に寄与している。	A
5 地域文化の振興	① 伝統文化の保存と活用	26 伝統芸能保存団体等への支援	南阿蘇太鼓保存会については継続的に補助を行っており各イベント等に積極的に参加されている。名水太鼓保存会については現在も独自に活動が行われているが、補助金の申請は行われていない。今後の動向について確認をしていきたい。	80%	B	伝統芸能の保存と継承の観点から、団体等への支援がなされている。今後、活動者の減少により、活動の自粛が余儀なくされている団体に対する支援の方策を検討する必要がある。	B

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
5 地域文化の振興	② 文化・芸術鑑賞会等への支援	27 文化・芸術鑑賞会等への支援	LOOPみなみあそ展示コーナーを活用したさまざまな芸術作品の展示や「みなみあそ元氣フェスタ」で伝統芸能を鑑賞することにより児童・生徒の伝統文化への関心が高まった。	70%	B	今後も様々な機会を通して、子供たちが文化・芸術等に親しむ場を設けていただきたい。	B
	③ 文化財の活用・保護・整備	28-1 指定文化財の保護・整備及び世界文化遺産登録推進	指定文化財の保護・整備については県の基金を活用し、令和5年度より正教寺の楼門の修繕を開始している。当該文化財は石橋を除く建造物では唯一の指定であり、重要な価値があるためしっかりとした修繕が必要である。 世界文化遺産登録推進に関しては令和4年度から始まった活動を継続し、重要文化的景観の第4次選定に向けた聞き取り調査を主体とした事業が実施された。 文化財保存活用地域計画については令和6年度に策定を終了した。南阿蘇村については3件目の認定に向けて事業を推進しているところである。計画が作成されると未指定文化財を含めたこれまで保存活用が難しかった文化財に対して包括的に対応することができることや、中長期的な文化財行政の指針を示すことができるため、文化財行政を庁内等で円滑に実施できるものと考えられる。	100%	A	指定文化財の保護の観点から、正教寺の楼門の修繕が令和5年度から開始され、熊本地震からの復興が確実に進んでいる。また、世界文化遺産登録推進に向けて、活動が継続されている。文化財保存活用地域計画については、令和6年度に策定が完了し、各文化財の認定に向けて取組の推進を期待する。	A
		28-2 文化財（コミュニティ施設等）の再建・整備	平成28年熊本地震被災コミュニティ施設等再建支援事業補助 1件 各地域のニーズに対して、100%対応することができている。熊本県復興基金を利用することで、村の持ち出しは少なくなっている。熊本地震から8年が経過し徐々に申請は減ってきており、令和7年度以降は相談案件はない。今後相談案件が出た場合は内容を精査しながら取り組んでいきたい。	100%	A	申請された熊本地震に起因するコミュニティ施設等の再建支援1件については、計画通り完了することができている。	A

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
6 スポーツの推進	① 南阿蘇村体育協会及びクラブ南阿蘇の活動支援	29 南阿蘇村スポーツ協会事業	南阿蘇村民球技大会開催にあたり、令和6年度よりスローピッチ・ソフトボール競技を新たに導入するなど、村民のスポーツを通じた健康増進や交流を図ることができた。また、新上五島町との交流については、新上五島町のサッカー協会を招待し交流を深めることができた。各種目協会についても、積極的に練習や大会を実施するなど、村民のスポーツ振興に寄与することができた。	90%	A	南阿蘇村民球技大会では、新たな競技を導入する等、多くの村民がスポーツに親しむことができている。また、新上五島町とのスポーツを通じた交流活動も積極的になされている。	A
	① 南阿蘇村体育協会及びクラブ南阿蘇の活動支援	30 南阿蘇村生涯学習支援クラブNPO法人「クラブ南阿蘇」の支援事業	クラブ南阿蘇は、総合型スポーツクラブ、生涯学習、児童放課後活動きらめきクラブを中心に多くの活動を行い、文化・スポーツの環境整備の受け皿となるべく継続して事業に取り組んでいる。きらめきクラブに参加する児童が減少傾向にはあるが、プログラムの充実など工夫を凝らした活動を展開している。 また、上天草市総合型スポーツクラブとの交流も継続するなど対外的にも積極的な活動を行うことができた。	90%	A	クラブ南阿蘇は、参加者の文化・スポーツ活動の伸長に大きく寄与することができている。上天草市との交流を継続するなど、活動内容の充実が図られている。	A
	② スポーツイベントの開催	31 各種スポーツイベントの実施	南阿蘇村民球技大会については、9種目1,188名が参加した。また、スローピッチ・ソフトボールを新たな種目として取り入れ、参加しやすい環境を気づけることができたとともに村民のスポーツ振興に寄与した。 太極柔力球教室は20名が参加し、13回の講座を受講することで体力向上及び健康増進につなげることができた。	90%	A	南阿蘇村民球技大会では、9種目で、1000人を超える参加者があったことは、大きな成果である。今後も、村民の体力向上及び健康増進を図るとともに、お互いの親睦が深まるスポーツイベントの開催の継続を期待する。	A
	③ スポーツ指導者の育成、施設整備	32 南阿蘇スポーツ推進員事業	研修会への参加や主催大会の運営等に携わり、スポーツの普及並びにスポーツ活動の促進が図られた。また、小学生親睦スポーツ大会を開催し、子供たちは中学入学前に親睦を深めることができた。 年に6回の会議を開催し、主催大会の運営方法や運営時期等について、より良い方法を探りながら村民のため活動に取り組めた。	90%	A	スポーツ推進委員主催のスポーツ大会や研修会等が計画的に実施されている。特に、小学6年生を対象とした親睦スポーツ大会の自身を工夫して実施したことにより、参加者も増加し、中学校入学前にお互いを知り合う貴重な機会となった。	A

## 令和6年度 南阿蘇村教育委員会点検・評価表

【評価基準】 A・・・十分達成（90%以上） B・・・概ね達成（70%以上90未満） C・・・やや不十分（50%以上70%未満） D・・・不十分（50%未満）

大項目	中項目	事業名	自己点検コメント	達成率	自己評価	評価委員コメント	評価委員評価
6 スポーツの推進	③ スポーツ指導者の育成、施設整備	33 スポーツ指導者研修会・講習会及びスポーツ講習会の開催	<p>スポーツ推進委員が積極的に研修会や講習会に参加し、村スポーツ振興を図るべく活動することができた。また、村内小学6年生を対象にモルックによる講習会・交流会を実施し中学入学前に交流の機会を作ることができ貴重な体験となった。さらには、ニュースポーツ大会を実施し村民向けの大会・講習会を実施することができた。SAQトレーニングについては、令和7年度に向けた打合せを実施した。</p>	90%	A	<p>地域スポーツの中核的役割を担うスポーツ推進委員が専門的な研修を受け、様々なスポーツイベントを企画立案し、地域住民のスポーツ振興が図られている。令和7年度からは、小学生を対象としたSAQトレーニングが実施されている。</p>	A
		34 体育施設の環境整備	<p>各施設は、老朽化により修繕箇所も増えている状況である。日頃からの点検や利用者からの情報提供をもとに優先順位を決め、利用者が気持ちよく安全に利用できる環境づくりに努める必要がある。また、除草作業を含める維持管理業務や清掃業務を発注し、施設の適正な管理運営に努めている。</p>	90%	A	<p>各施設の老朽化に伴い、危険個所の修繕等、素早い対応ができています。体育館等の施設は、災害時の避難所としての役割も担っており、定期的な点検も必要である。</p>	A
7 防災教育の推進	① 防災教育・避難訓練の実施、自ら命を守る力を身に付ける教育の推進	35 防災教育・避難訓練の実施、自ら命を守る力を身に付ける教育の推進	<p>各学校において、身近に起きた大災害を教訓に避難訓練等の積極的な実施や防災等について学習する機会が設けてある。特に、中学校は実践的な避難所運営訓練などを積極的に実施しており、防災に対する意識は高い。今後も継続的に防災への関心を高めることができるよう、情報提供や訓練・研修機会の確保など、行政としても積極的に支援を行う必要がある。</p>	90%	A	<p>各学校において、災害時の避難訓練をはじめ、不審者対応避難訓練等も関係機関の協力のもと、組織的・計画的に実施されている。中学校の避難所運営訓練は継続的に実践されており、防災教育の担い手としての人材育成がなされている。</p>	A

## 点検評価委員の意見

令和6年度の南阿蘇村教育に関する事務の管理及び執行状況について、南阿蘇村教育委員会担当者から説明を受け、関係文書及び諸報告書を審査し、更に質疑を重ねて総合的に検討した結果、下記のとおり意見をまとめた。

### 記

- 1 平成28年の熊本地震、そして新型コロナウイルスによる感染症と、この9年間は復旧、復興、再開、感染症対策と言葉では言い尽くせない激動の9年間であった。  
このような状況の下、これまでの成果を活かしながら、令和6年度の本村教育に関する事務の管理及び執行の状況については、各々の事業目的の達成を目指した管理及び執行に関する事務の計画、準備、実行、成果等、どの段階にあってもしっかりと調整され、その遂行状況は事業説明書や点検・評価表に端的に整理されていた。
- 2 令和2年4月に改訂された「第2次南阿蘇村教育大綱」（令和2年度～6年度までの5年間）の最終年度にあたる今回は、数多くある南阿蘇村教育に関する事務及び管理項目の中から、7つの基本方針ごとに全35事業を評価対象として選定し、点検、評価を実施した。  
なお、点検、評価の具体的手順は、当初の事業目的・内容の概要説明後、事業の実際と成果について各担当者から直接説明を受け、必要に応じて質疑を加えて当該事務の管理及び執行状況、目的達成状況等について一つ一つ吟味し点検、評価を行った。
- 3 点検結果は、別紙のとおり各事業の目標達成に向け、様々な工夫と配慮を加え、さらに必要な対策を講じながら業務に係わる様々な準備等が行われ、概ね所期目標を達成したものと判断できると言える。
- 4 今後の村教育に関する事務の管理及び業務遂行に関して評価委員としての気付きを以下に示させていただきます。
  - ① 学習用教材（ロイロノート）を新たに導入したことにより、学習課題や個々の興味・関心に応じた調べ学習、基礎・基本の定着、考えを共有し自己の考えを広げ深める学習につながっている。また、令和7年度の全国学力・学習状況調査（質問紙調査）の結果を見ても、ICT機器の使用状況が小6、中3とも大きく伸びている。今後も教職員の研修を深め、ICT活用も含めた授業力の向上を期待したい。
  - ② 新型コロナウイルスが「5類感染症」となり、コロナ禍以前の状況に戻り始め、各事業、地域と学校の協働活動が活性化してきた。学校と地域、地域の人と人をつなぎ、南阿蘇村の良さを活かした多くの活動が確実に成果

を上げている。各種の事業遂行に関しては、村内にある関係機関や諸団体、あるいは村が委嘱したコーディネータ等との連携を図り、新しい活動の充実も含め、それぞれの取組を重ね、これからもこの協働活動体制を持続可能なものとして充実させていただきたい。

- ③ 事業目標達成のための具体的実践の様子や成果についての調査に対して、各学校からも十分な協力が得られ、有効な情報提供となったことで、各関係の事務内容の点検や評価の審議に大いに役だった。

今後も、本村教育目標達成と本点検評価のための年度末調査が連動していることを事前に各学校等と共有していただき、実際の学校教育、社会教育、社会体育、地域文化伝統等に関する事業自体がさらに充実し、それぞれの事業対象者である村民各位の満足度を高めていただきたい。

以上

令和7年9月1日

南阿蘇村点検評価委員

氏名 北 誠一郎 印

氏名 坂田 菊美 印

(原本へ押印)